県南家畜市場通信

令和5年6月号

「 暑い夏が来る前に… 」

今年の５月は、低温注意報が出たかと思えば、30℃を超えるような日もあり、例年よりも気温の変化が大きい1か月でした。牧草の出穂は例年より早い傾向で、圃場作業に追われることも多いこの時期ですが、忘れてならないのは“**牛の飼養環境の確認**”です。牛舎の換気扇の清掃や寒冷紗の設置、新鮮できれいな水の確保など、“暑熱対策”の準備を始め、急な暑さにも対応できるようにしておきましょう。

特に“**水**”は、重要項目の一つ。「**飲みたいときに、飲みたいだけ、飲めること**」が、基本的な暑熱対策となります。今回は水の重要性についてお伝えします。本格的な夏が来る前に、しっかりと管理を見直しましょう！

水の役割

水は、**生命の維持に必要不可欠、かつ身近で一番安く、重要な栄養素**です。暑熱ストレスの緩和にもつながります。**飲水量が減ると、餌の食い込みも落ち**、繁殖成績や子牛の発育にも影響が出てしまいます。

必要な飲水量

特に**夏場の暑い時期は、飲水量が増加**します（図１）。今一度、水の量が足りているか確認してみましょう。

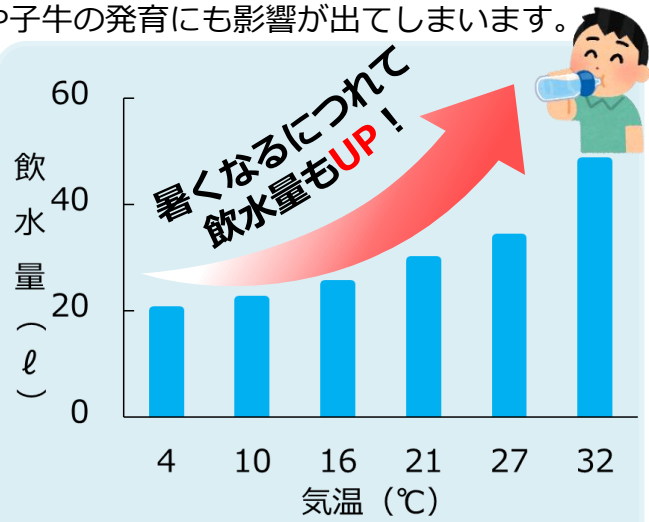

図１　育成牛（体重約280kg時）に必要な１日当たりの飲水量（ℓ/日）

出典：日本飼養標準肉用牛（2022年版）

きれいな水の給与

もう一つ重要なのは、**“新鮮できれいな水”**を与えること。水が汚いと飲水量が減少します。

ウォーターカップ、水槽どちらにおいても、こまめな掃除が必要です。特にこの時期は毎日の掃除をおすすめします。

<これじゃ飲みたくありません…>

ヘラの裏側も要注意！

- 汚れがこびりつきドロドロ
- 水が濁っている
- 餌の残渣が底にたまっている

<この状態を保ちましょう！>

- 水に濁りがない
- 餌の残渣がない

牛の食器も清潔に！

飼料増産の取組事例

耕畜連携による大豆×ライ麦の二毛作の取組　－実証結果－

市場通信４月号でお伝えした、奥州市江刺での耕畜連携「**大豆跡のライ麦二毛作**」実証ですが、5月4日に無事収穫を迎えました！その実証結果をお伝えします。

今回の実証では、肥料高騰対策として、化学肥料を標準施肥量の1/2にした区も設け、生育や収量を調査しました。

＜収量調査結果＞
・施肥量1/2でも乾物収量に大きな差はなし（表１）。

＜成分分析結果＞
・施肥量1/2でも成分値に大きな差はなし。
・**タンパク約14%**、**TDN約60%**を示し、栄養価充分！

＜嗜好性＞
・ライ麦を収穫した畜産経営体からは、「試しに収穫後すぐ給与したところ、**牛の嗜好性は良好**」と好感触！

表１　ライ麦収量調査結果

（kg/10a）	生収量	乾物収量
標準施肥区	4,073	672
施肥1/2区	3,831	644

出穂の様子

《子牛を大きく育てよう！》～岩手県肉用牛飼養管理マニュアルから～

マニュアルのダウンロードはこちら→

○ 妊娠末期、授乳期の母牛の飼養管理（増飼いの重要性）

繁殖牛では、繁殖への栄養配分の優先度が１番最後となります（表）。増飼いを行わず、維持期の栄養水準のまま分娩前後の管理を続けていると、繁殖や産乳に必要な栄養が不足します。**分娩後の発情回帰を早め、十分な泌乳量を確保するため、増飼いを適正に行いましょう。**

子牛では、分娩４か月前から胸腺※が発達します。**増飼いの実施は胸腺の発達に影響するため、元気で健康な子牛生産には、適切な増飼いが必要**です。　※胸腺は自己免疫機能を司る器官で、免疫の強さは胸腺の大きさに比例します。

表　栄養配分の優先順位

1	生命維持
2	胎子の発育（妊娠維持）
3	母牛の成長
4	産乳
5	栄養度（体脂肪蓄積）
6	繁殖（卵巣機能の回復）

☆配合飼料給与量は、妊娠末期は最大2kg/日を目安とし、急に増量せず、２週間程度かけて徐々に増量しましょう。

お問い合わせ　>>>　奥州農業改良普及センター　0197-35-8451
一関農業改良普及センター　0191-52-4961